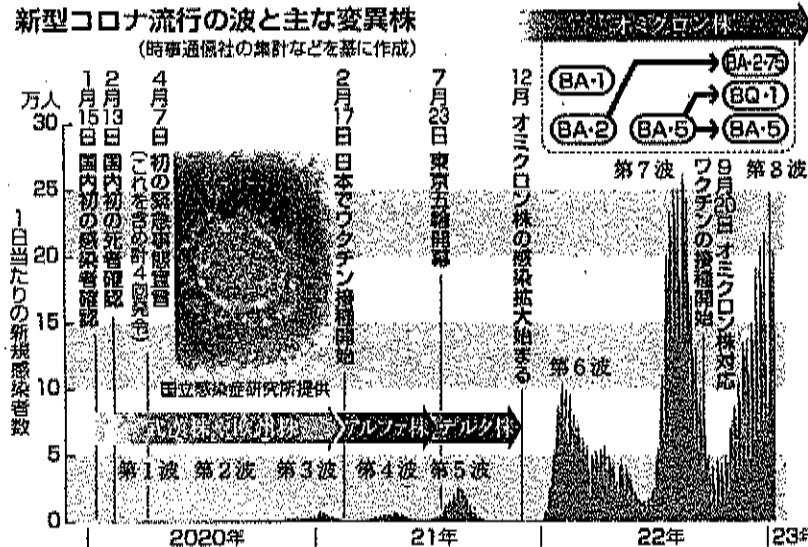


新型コロナ3年 変異株次々と



国内で新型コロナウイルスの感染者が確認されてから15日で3年。この間、変異株が次々と現れ、流行の波が続きました。日本では2020年1月15日、初の感染者が確認され、厚生労働省が翌日発表しました。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で集団感染も起き、中国由来の武漢株や欧州株による流行の波

は21年春までに計3回発生しました。21年2月には日本でもワクチン接種が始まりました。その後、英國由来のアルファ株が広がりました。7月に1年遅れで開幕した東京五輪は、重症化リスクが高いとされるインド由来のデルタ株による第5波真っただ中の大会となりました。

その後、ワクチン接種による免疫獲得などでいったん収束しましたが、12月には南アフリカ由来のオミクロン株が拡大し始めました。同株は軽症傾向が指摘される一方、感染力は強く、置き換わりが急速に進行。同株主流の第6波の中、22年2月5日には1日の感染者数が初めて10万人を超えるました。

第6波が進む中でオミクロン株の主流はBA.1からBA.2に変わりました。22年夏の第7波では、免疫をより回避しやすいBA.5が主流になりました。同年8月19日には新規感染者数が26万人を超えて過去最多となりました。現在はBA.5に加え、BA.2系統のBA.2-75、BA.5系統から派生したBAQ.1の三つが流行していると推定されます。感染者数増に伴い持病がある高齢患者も増えたとみられ、1日当たりの死者数は今月11日に初めて500人を超えるました。